合同会社SHIP　研修パッケージ No.4

受診勧奨通知等改善プログラム

「伝わる」から「 行動につながる」へ

健康診断の受診、保健指導の利用、健康教室への参加などを後押しする通知・案内を、よりわかりやすく、行動につながるマテリアルへ。ヘルスコミュニケーションの基本から、ナッジの応用、希望に応じた生成AI の活用まで、実際の素材を使った演習を通じて学びます。

この研修でできるようになること

- 受け手の視点から、通知や案内の課題を具体的に見つける
- ヘルスコミュニケーションとナッジの考え方を改善案に落とし込む
- 実際の通知マテリアルを見直し、 改善案を作成・共有する
- 必要に応じてAI を活用し、 文章や構成案の作成・改善を試す

研修の3つの特長

01 伝わる設計	02 ナッジで改善	03 実物で実践
受け手の理解• 関心• 行動を意識した通知づくり	行動を後押しする表現• 見せ方を検討	ワークを通じて改善案を形にする

対象・ 研修形式

対象： 自治体・保険者・企業等で保健事業に従事する方

複数回コース	全3 回× 2.5 時間（計7.5 時間）｜講義と演習を段階的に実施
単回コース	2 時間• 3 時間から選択｜基礎＋実践をコンパクトに学習

実施イメージ

自組織で使用中の受診勧奨通知・保健指導案内・健康教室チラシ等を持ち寄り、 課題整理 → 改善案作成 → 発表• フィードバックにつなげます。※ 第 3 回の AI 活用は、 ご希望や実施環境に応じて調整可能です。

主な講師（予定）

福田 吉治　帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授、合同会社SHIP代表：国保中央会国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会委員、東京都・埼玉県国民健康保険組合団体連合会保健事業支援評価委員会委員、著書に「国保のデータヘルス計画策定・推進ガイド 第 3期版」。

杉本 九実　帝京大学大学院公衆衛生学研究科助教、株式会社PONO代表取締役、保健師：東京都国民健康保険組合団体連合会保健事業支援評価委員会委員、著書に「ナッジを応用した保健事業実践 BOOK」など。

小川 ルナ　医療ライター（フリーランス）、公衆衛生学博士：医療ライターとして健康関連の記事等を執筆。帝京大学大学院にて公衆衛生とヘルスコミュニケーションを学ぶ。

研修プログラム

複数回コース ｜ 全 3 回・ 各 150 分

第 1 回	**ヘルスコミュニケーションを学び、 通知を見直す** • 講義 1「 ヘルスコミュニケションの基礎」 （40 分） • 講義 2「 通知マテリアル改善」 （30 分） • ワク「 通知マテリアルの改善：際」 （60 分） • 表質疑答まとめ（20 分）
第 2 回	**ナッジを使って通知の改善を深める** • 講義 1「 ナッジと行動経済学の基本」 （ 40 分） • 講義 2「 通知マテリアル改善へのナッジの応用」 （30 分） • ワーク「 マテリアルの改善へのナッジの応用： 実践」 （60 分） • 表質疑答まとめ（20 分）
第 3 回	**AI を用いた通知の作成・ 改善を体験する** • 講義 1「 通知マテリアルへのAI の利用」 （40 分） • ワーク 1「 AI を用いた通知マテリアル作成」 （50 分） • ワーク 2「 AI の活用：その他」 （40 分） • 表質疑答まとめ（20 分）

単回コース

2 時間	• 講義 1「ヘルスコミュニケーションの基本」 （ 25 分） • 講義 2「 通知マテリアルへのナッジの応用」 （ 25 分） • ワーク「通知マテリアルの改善」（ 60 分） • まとめ・質疑答（ 10 分）
3 時間	• 講義 1「ヘルスコミュニケーションの基本」 （ 25 分） • 講義 2「 通知マテリアルへのナッジの応用」 （ 25 分） • ワーク 1「 通知マテリアルの改善」 （ 60 分） • ワーク 2「 通知マテリアル作成へのAI の活用」 （50 分） • まとめ・質疑応答（ 20 分）

※ 実施内容・演習素材・AI の利用範囲は、ご依頼元の課題や実施環境に合わせて調整できます。

導入・ご相談について

ご希望の保健事業やマテリアルに合わせて、研修方法を調整できます。実施方法、日程、費用等は個別にご相談ください。

お問い合わせ先：合同会社SHIP
URL：https://1ship.jp　E-mail: toiawase@1ship.jp